

障がい者の農業分野での就労に向けた取り組み

(社会福祉法人 正和会 A・I Hope (アイ・ホープ))

＜法人の概要＞

所在地：愛媛県宇和島市保田

設 立：平成11年6月

資本金：26,000万円 売上高：82,600万円（平成25年）
（うち農業：100万円、うち農業関連事業：0円）

役 員：12名（うち農作業従事者 8名）

従業員数：150名、うち農業従事者 7名

経営面積：0.6ha 営農作物：水稻、じゃがいも、だいこん、など

農業開始時期：平成21年8月



農園開始時の休耕田の整地



整地後の農場全景

＜農業参入に至った経緯・動機＞

精神科病院へ長期入院していたT氏は、「地元へ帰り我が家に住み、農業を続けたい」との思いを持っていた。

農業が持つ福祉力に着目し、障がい者が自然と触れ合いながら無理なく各人の能力に応じて自立を促し、心身の健康や機能回復、心のゆとりや豊かさなど障がい者の生活の向上を実現させるべく「A・I Hope」を開設した。

＜農業参入することを決めてから営農開始まで＞

T氏が持つ休耕田を法人が賃借するに至るまでには、地域住民の障がい者に対する不安に、当事者を含め仲間達が廃畑の石ころ拾いから始まり、3年間の日々を費やし農地として復元したことにより、地域住民より信頼を得たことからある程度の手ごたえを得たので、当法人理事会で「A・I Hope」を障がい者の社会復帰事業として承認を得て、農業に参入した。

しかし、農機具も何も無く手作業での開墾は大変な日数と彼らの誠実な努力なしにはできなかった。

<営農開始から現在まで>

現在、農業指導員と7～8名の障がい者で、水稻、じゃがいも、だいこん、さつまいもを栽培している。農地(休耕田)は見違えるほど青々と生き返り、地域住民からも「彼らの仕事に感動」との言葉も聞かれるようになった。彼らは、作物の生育過程を通じて計画・準備・判断といった行為や責任感、満足感の発生、心身のリラックス、人間関係の構築等多岐にわたる効果が見られている。

また、収穫物は当法人の給食関係に納入しているが、今後は地元生産の新鮮な野菜や米を地元の人達に提供し「A・I Hope」の認知や経営の確立を目指し取り組みたい。

<今後の農業経営の展開方向>

地域振興型就労支援に思いをこめて、障がい者、障がい者福祉、地域福祉の地域の中での位置づけを目指して農業生産への関わりを強化し、雇用促進・新たな就労の場の創設を確立したいと夢は大きく持っている。

今までの農業から起業として耕地を拡大し、地域の気候・土壌に合った農作物を模索している。例えば、アボカド、ブルーベリー、菌床しいたけ、漢方草等・・・地域福祉で街づくりに参画できるよう農業を通じての取り組みを行いたい。



農園作業風景



農園作業風景